

# 侵入を防ぐ! ランピースキン病対策

## ランピースキン病について

### ランピースキン病とは…

牛および水牛の皮膚疾患で、伝染病です。全身の皮膚に結節(できもの)や水腫が現れ、発熱や泌乳量の減少などの症状が出て、生産性に影響を及ぼします。主に、蚊やハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。国内での発生は未確認ですが、アジアでは2019年の中国での発生以降、各国で発生が続いています。

## 原因病原体と病名の由来

原因病原体▶ランピースキン病ウイルス

病名の由来▶感染牛の皮膚疾患症状(皮膚に多数の結節ができて「でこぼこ」になる)から、ランピースキン(lumpy skin)病と名付けられました(lumpy:表面などがでこぼこした、skin:皮膚)。

## 感染源

節足動物▶蚊やハエ、ダニなどによる機械的伝播が主な伝播経路

感染牛の▶ウイルスを含む唾液や鼻汁、乳汁、精液などとの接触で感染。唾  
唾液など 液で汚染された飼料や飲水も伝播源になります。  
※ウイルスは尿やふん便中には排泄されません。

かさぶた▶感染牛の皮膚疾患部位にできる“かさぶた”も伝播源になります。

## アジアにおけるランピースキン病の発生状況



## 近隣国で多発!

中国▶2019年8月に中国大陸の一部で発生。その後、沿海地域に拡大。

台湾▶2020年7月に金門島(金門県)で感染牛を確認。特に河川の流域や低地での発生が多く、季節としては多湿夏期(雨期)に多発。

韓国▶2023年10月に初めて感染を確認し、国内で107件の発生を確認。同年11月10日に国内の全ての牛にワクチン接種を完了し、同月27日に牛の搬出入制限を解除。

日本▶発生なし。

清浄国だが、油断は禁物!

## ランピースキン病を疑う症状

潜伏期間▶2~4週間

感染初期▶発熱、食欲不振、鼻汁、流涙、流涎

発熱後48時間以内▶体表や呼吸器、消化器、生殖器の粘膜に多数の発疹や結節が現れます。

経過▶回復までに3か月以上かかり、衰弱状態が長期間続きます。長いものでは半年~1年かかります。軽度の場合は2~3週間で治癒します。

影響▶流産や泌乳量の低下が認められます。結節は、回復後も痕跡が残るため、皮革の商品価値が低下します。

結節(全身性)



皮膚病変



結節



鼻汁



出典:農水省HP

致死率は高くないものの、上記のことから、本病は経済的損害の大きい疾病です。

## ランピースキン病の予防策

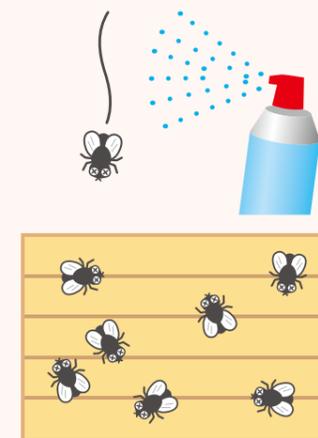
### ウイルスの侵入防止対策として…

#### ①毎日の健康観察

牛の導入・出荷・移動時は観察を徹底しよう。



#### ②害虫の駆除



#### ③清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、器具や施設は清掃・消毒を心がけましょう。



有効な治療法はなく、国内での発生が認められた場合に、早期発見・早期通報が必要です。